

様式第4号（第11項関係）

西脇市審議会等の会議の記録

審議会等の名称	平成27年度第1回北はりま定住自立圏共生ビジョン会議
開催日時	平成27年9月15日（火） 午後2時30分～午後4時00分
開催場所	西脇市生涯学習まちづくりセンター 3階ホール
出席委員の氏名又は人数	15名
欠席委員の氏名又は人数	1名
出席職員の職・氏名又は人数	オブザーバー8名、事務局4名
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴人の数	1名
議題又は協議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1 第1次北はりま定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について 2 第2次北はりま定住自立圏共生ビジョンの策定スケジュールについて 3 第2次北はりま定住自立圏共生ビジョン 第1～第2（案）について 4 北播磨広域定住自立圏の概要について 5 意見交換
会議の記録（概要）	
発言者	<p>（開会） （事務連絡）</p> <p>（開会あいさつ） 委員各位の御出席に感謝を申し上げます。 また、兵庫県の市町振興課、北播磨県民局からも御出席をいただいております、重ねてお礼を申し上げます。 多可町の副町長は西脇市民であり、西脇市の副市長は多</p>
事務局	
西脇市長	

	<p>可町民である。両市町の結びつきの強さを象徴する例であると思う。</p> <p>本日は、北はりま定住自立圏のこれまでの5年間の総括と、これからの5年間の展望について、忌憚のない意見をいただきたい。</p>
事務局	<p>(新委員、オブザーバー、事務局の紹介)</p> <p>(以後の進行を浅野会長に依頼)</p>
事務局	<p>第1次北はりま定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について</p> <p>会議資料(6頁～11頁)に基づき、事務局から説明</p>
委員	<p>第2次ビジョンでの事業実施の有無について、「削除」となっている事業がいくつかあるが、これらは今後3市1町の広域で実施され、北はりま定住自立圏の実施事業からは削除されるという認識でよいか。</p>
事務局	<p>お見込みのとおりである。スケールメリットが期待できる事業については、北播磨広域定住自立圏の3市1町で実施する予定である。</p>
委員	<p>今回の会議が二つに分かれるという意味か。</p>
事務局	<p>今回の会議については、あくまで1市1町での会議である。3市1町の北播磨広域定住自立圏については、議会の議決を経た後、別途会議を組織し、具体的な事業内容等を検討していく。</p>
委員	<p>「空き家等情報バンク制度の構築・推進」が「削除」となっているが、3市1町でも実施されず、完全に削除されるのか。</p>
事務局	<p>確かに3市1町でも実施しないこととなっているが、多可町では空き家等情報バンクを制度化している。西脇市では制度化していないが、移住・定住促進施策の中で、空き家バンクの制度を取り入れていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>第2次北はりま定住自立圏共生ビジョンの策定スケジュール</p>

	<p>ルについて 会議資料（12頁）に基づき、事務局から説明</p>
会 長	<p>総務省との事前協議の内容はどのようなものか。</p>
事務局	<p>兵庫県を通じて、共生ビジョンの内容を総務省と調整する必要がある。3市1町の新たな定住自立圏の内容との重複の有無などをチェックしていただく必要があると考えている。</p>
会 長	<p>2つの共生ビジョンの策定スケジュールはどのようなになるのか。</p>
事務局	<p>第2次北はりま定住自立圏共生ビジョンについては、今年度の3月末までかけて策定するが、北播磨広域定住自立圏の共生ビジョンについては、本年11月末までに策定を完了する予定である。</p>
事務局	<p>第2次北はりま定住自立圏共生ビジョン 第1～第2 （案）について 会議資料（13頁、別冊）に基づき、事務局から説明</p>
会 長	<p>第2次の共生ビジョンにおいて、新規事業はあるのか。</p>
事務局	<p>新規事業の実施の有無を含めて、担当者間で協議を行っている最中である。</p>
会 長	<p>西脇市と多可町の人口推移については、直近ではどのような傾向にあるのか。</p>
事務局	<p>住民基本台帳のデータ等を見ると、人口減少に歯止めがかかっていない状況である。</p>
委 員	<p>今回、3市1町の新たな定住自立圏ができることを機に、行政と協力して圏域全体の観光客数を増やすような取組ができれば良いと思う。</p>
副会長	<p>定住自立圏の目的としては、外部から人を呼び込むことと、今の人口を維持していくことのどちらを重視している</p>

事務局	<p>のか。</p> <p>定住自立圏については、各市町が単独で担うことが難しい都市機能や生活機能などを、ひとつの圏域の中でそれぞれの市町が役割分担をしながら維持していこうとするものである。そのため、どちらかと言えば圏域からの人口流出を防ぐことに重点を置いている。</p>
委員	<p>多可町加美区に住んでいるが、毎月の広報の「おめでた」欄を読むたびに、少子化が進んでいることが切実に感じられる。このままの状態が続くと、どうなってしまうのだろうという危機感がある。だが、都市部からUターンで戻ってくる若者もあり、嬉しく感じている。まず、この地域で生計を立てることができてこそ、若者が定着してくれると考えている。</p> <p>また、播州百日鶏に 20 年程携わっているが、まだまだ町外では知名度が低い。Uターンしてきた若者にも興味を持ってもらいたい。そのためには、若者にとって魅力ある職場を作っていかなければならないと感じている。</p>
委員	<p>農業の収益性について、野菜の収益性は米の数倍であると言われている。加えて、稲作は機械化が非常に進んでおり、人手がかからなくなっている。一方で、野菜を育てるには人手が多くかかり、そこに雇用が生まれる。そういったことを踏まえた上で、収益性と地域の雇用を重視した農産物の出荷拡大を行っていくべきである。</p>
委員	<p>観光協会の在り方について、現状では観光担当課が事務局を担っている。休日に両市町へ観光に来られる方に対しても、十分な情報提供ができる体制を作っていくべきである。同時に、両市町の様々な観光資源を、観光客に対してしっかりと説明できる人材を配置することが重要である。</p>
委員	<p>西脇市と多可町からは、数多くの著名人を輩出している。その中の誰かに観光大使になっていただき、交流人口を増やす取組をしてはどうか。</p> <p>また、西脇市に住んでいると、多可町の観光情報が手に入りにくいと感じる。まずは両市町間での観光情報の共有を強化すべきである。</p>

市担当	<p>両市町の観光交流の拠点としては、北はりま田園空間博物館に重要な役割を担っていただいている。また、観光情報の共有については、情報誌の全戸配布による観光情報の周知を行っている。また、ホームページによる情報発信も行っている。</p>
委員	<p>北はりま田園空間博物館へ来られる観光客は、県外の方が多いのか。</p>
委員	<p>県外の方が多いように思う。</p>
委員	<p>観光大使については、他の会議でも同じような意見が出ていた。若者と近い世代の著名人が観光大使になれば、かなり注目度が高いと思う。若者の注目が集まれば、SNSによる情報の拡散も期待できる。</p>
委員	<p>「学校給食地産地消推進事業」について、「計画期間中に未実施」となっている。両市町は地産地消を比較的推進しやすい環境にあると思うが、未実施の理由は何か。</p>
市担当	<p>それぞれの給食センターで地元産食材の確保に努めているが、両市町間での連携体制の構築には至っていないのが現状である。</p>
会長	<p>現状の地産地消率はどのくらいなのか。</p>
市担当	<p>西脇市においては、給食に使用する野菜のうち、全体の2割程度が地元産である。</p>
委員	<p>情報発信の充実が長年の課題であると感じている。担当課が様々な方法で情報発信に取り組んでおられるとは思いますが、まだまだ不十分なところがある。</p> <p>また、交流人口の増加について、西脇多可新人高校駅伝競走大会の開催が実現し、大会開催時には両市町が多くの人々で賑わうようになった。また、市内の高校がスポーツで活躍すると、まち全体が活気づく。このように、スポーツが交流人口を増やし、まちを活気づける要素になると感じている。</p>

委員	<p>「一般県道中安田市原線バイパス整備促進事業」について、第2次の共生ビジョンでは「削除」となっているが、今年度で事業が完了するという認識でよいか。</p>
事務局	<p>市道に認定されたことで、市が整備を行い、事業を完了させる方針になったことから、「削除」としている。</p>
委員	<p>西脇市のバスターミナルについて、設備は立派ではあるものの乗客が非常に少ない。バスに乗車する目的も限られており、乗客も年々減っている状況である。若者が西脇市から通勤できるような仕組みが必要であると思う。</p>
委員	<p>4年前に「まちの駅たか」が完成し、この施設に観光協会が出向している。年中無休の施設であり、土日には観光コンシェルジュを1名配置し、観光案内を行っている。</p> <p>町内には3つの代表的な山があり、県外からも登山客が訪れる。登山用マップも作成し、配布している。また小学校からも、年間5件ほど登山の申込がある。小学生が登山をする際には、ボランティアが付き添っている。</p> <p>また、町内に観光客が来られる際にも、ボランティアが町内を案内するなどの取組を行っている。このような取組を続けながら、地域全体で観光交流に力を入れていきたいと考えている。</p>
委員	<p>北播磨広域定住自立圏で実施する事業については、第2次の共生ビジョンからは削除されるということであるが、3市1町で事業を実施するとすると、各市町から様々な意見が出てくることになる。西脇市と多可町にとって、事業が有効に実施されるよう、今後慎重に検討していくべきである。</p>
委員	<p>「有害鳥獣被害防止対策事業」について、今後は3市1町の広域で実施されるということであるが、具体的な被害防止のための方法を検討していただきたい。また、鳥獣被害の現状についても教えてほしい。</p>
市担当	<p>兵庫県調査によると、平成22年時点でのシカの頭数は約15万頭であるとされている。県としても、毎年3万～3万5千頭の駆除を目標としており、徐々に頭数は減っ</p>

<p>事務局</p> <p>事務局</p> <p>多可町長</p>	<p>ていると聞いている。</p> <p>北播磨広域定住自立圏の概要について 会議資料（14頁）に基づき、事務局から説明</p> <p>次回の会議日時、内容等について（事務連絡）</p> <p>（閉会あいさつ） 熱心に議論をしていただき、感謝を申し上げる。定住自立圏共生ビジョンを推進していくためには、関係職員や住民が「当事者意識」をどれだけ持てるかが重要であると考えている。各分野で両市町が緊密に連携していただいていることを大変嬉しく思っている。今後も引き続き御協力をお願いします。</p> <p>（閉会）</p>
<p>問合せ先</p>	<p>西脇市都市経営部次世代創生課 TEL 0795-22-3111 / FAX 0795-22-1014</p>